

スマートモビリティ（自動走行）研究開発・実証事業について

1. スマートモビリティとは

都市環境や自然環境に配慮しながら、スムーズで快適な移動を実現する交通手段やシステム、コンセプトなどを指す言葉です。

2. スマートモビリティを取り巻く状況

国の政策的位置付けとして、『日本再興戦略』改定 2016（平成 28 年 6 月 2 日閣議決定）において、グローバル市場での競争力強化、交通事故の削減、高齢化の進展への対応等の我が国の抱える課題を踏まえ、2020 年代後半以降に完全自動走行の試用開始を目指すため、当面は先行的に、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会における導入を目指す「自動走行機能付き地域公共交通システム」、地域における高齢者等の移動手段を念頭に置く「地域コミュニティ向け小型自動走行システム」等の開発を進めることを定めております。

3. 本事業の目的

運輸部門の省エネルギー推進に貢献するため、安全性・社会受容性・経済性の観点や、国際動向等を踏まえつつ、革新的なセンサー等の研究開発を進めるとともに、高度な自動走行システムの実証等を通じてその社会実装に必要な技術や事業環境等の検討を行う。

⇒高度な自動走行システム：専用空間等を活用した端末交通システム

※まずは有人自動走行でビジネスモデルや事業面についての検討に着手し、将来の無人走行に向けて必要な検討課題の洗い出しを行う。

4. 事業期間

2016 年度（平成 28 年度）～

5. 事業スケジュール

2016 年度（平成 28 年度）：実証候補地の選定（公募）

2017 年度（平成 29 年度）：公道での実証に向けた準備

テスト（閉鎖）空間でのテスト走行

2018 年度（平成 30 年度）：公道での実証の実施、

6. 使用予定の車両

日野ポンチョ（ディーゼル車）をベース車両に、先進モビリティが開発する自動運転モジュールを搭載



7. 市として

本年7月に避難指示が解除された小高の町を再興すべく、また、来年4月に小高工業高等学校と小高商業学校が統合し開校する小高産業技術高等学校に通う若い活力ある学生を貴重な人財として育成すべく、市民そして国・県・近隣自治体・企業・関係団体等と連携し、イノベーション・コースト構想と連動した取り組みを加速化させてまいりたいと考えております。

具体的には、その取り組みの一つとして、自動走行に関し先進的取り組みを推進しているソフトバンクドライブ、地元の交通インフラを支えている企業そして小高産業技術高等学校と連携し、まずはJR小高駅と小高産業技術高等学校を結ぶ経路について自動走行に関する実証、加えて将来的には、切迫している市の公共交通の一助としての利活用も視野に取り組み、先進的な公共交通システムの構築を検討してまいりたいと考えております。

本年4月には、市にイノベーション・コースト構想実現のための中核施設「ロボットテストフィールド」と「国際産学官共同利用施設」の立地が決定した他、本年11月にはドローンレース大会が開催される等、先進的・近未来的なまちづくりが加速化しています。

以上のことから、自動走行導入に向けた検討を開始していることを報告いたします。